

ふだ 「お札で、願いがかなうかしら」

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



1 長岡京在京三条三坊一町出土「向日市埋蔵文化財調査報告書第67集 長岡京跡・中南道遺跡」(財)向日市埋蔵文化財センター 2005年より転載)、2 平安京在京六条八町出土、3・4 羽ノ殿宮跡出土、5 長岡京在京六条三条南小路北側溝出土「長岡京市埋蔵文化財センター 年報平成12年度」(財)長岡京市埋蔵文化財センター2002年より転載)

はじめに『枕草子』や『源氏物語』長岡京や平安京などで発見されています。この場面、実は帝の「物忌み」に際して、光源氏を含めた臣下たちも、また、宮中にこもって宿直し続けているところなのです。物忌みというのは、不甘な出来事がありそうな時、住まいに悪星を寄せ付けないため、一定の期間謹慎することです。その際に陰陽師に占わせ、門を閉めて物忌札を立て、外界の人に物忌みであることを示しました。

このような物忌みを使ったのが、

都の「まじない」當時は、疫病のほか火事・地震・洪水などの災害が頻繁に起こり、人々は日々の不安を抱えていました。このような災害は現代でも私たちを苦しめていますが、当時の人々にとっても、どうすることもできない災いでいた。それらを鎮め、防いだりするため、様々な「まじない」に頼っていたわけです。

このような「まじない」の一つがお札を用いた「まじない」で、これが平安時代後期のものがあります(お札3・4)。毗天罪とは道教の神様の天罪星のこと、北斗七星の別名であり、治病や寿命延長の効能があるとされています。



「まじない」遺物の出土状況(鳥羽殿宮跡124次調査)

木製品の出土状況(鳥羽殿宮跡124次調査)

④悪星除けなどに分けられます。たりします。効能がなければ、また別のお札が用意され、何度も「まじない」が繰り返されたことでしょう。また、不要になれば、焼やゴミ穴などに捨てられました。

お札は、公共の場所ではあまり見つかっておらず、個人の屋敷の内部や周辺で多く発見されています。災いは外から来ると考えられており、「内と外」を分けることが重要で、そのため「まじない」は主に空間の境界で行なわれることが多いようです。蘇民将来とその子孫だけは以後疫病にからなかつた、との話が載っています。牛頭天王は元来疫鬼の首領で、諸悪の根源であり、祇園御靈会の崇り神でもあります。④には、悪星名などと共に呪文が書かれています。

『説経牛頭天王』(文政12年)によると、物忌みは桃の板に大書きし門戸の上、または四方隅、梁柱、住處五十歩の道側の要処に著する」とあります。また『今昔物語集』の中には「門二物忌ノ札ヲ立テ」と考えられ、わが国古来の神道においており、「内と外」を分けることが重要で、そのため「まじない」は、宮中や京内の屋敷で行なわれたことから私的な現世利益を願ったものと考えられ、わが国古来の神道に仏教・陰陽道・道教・修驗道などが混じった形で執行なされたことが知られています。蘇民将来のお札は祇園祭の際に付いています。同様の札が3点見つかっていて類似していることから、建物の東西南北の柱などに打ち付けてお札などを飾ったり、身に付けてお札を使う「まじない」は、宮中や京内の屋敷で行なわれたことから私的な現世利益を願ったものと考えられ、わが国古来の神道に仏教・陰陽道・道教・修驗道などが混じった形で執行なされたことが知られています。蘇民将来の